

まちの歴史

地下に遺った歴史の証言

防空壕

池袋本町四丁目町会長の中村政雄さんのお宅をお訪ねして、防空壕を見学させていただきました。

警戒警報・空襲警報・B 29・防空壕・疎開……。

今、この言葉をどれくらいの人知っているでしょう。かすかな記憶にある人ももう既に60歳を過ぎています。

住宅街の一角。中村さん宅の中庭、中村さんのお父様手づくりのもみじと松と滝を配した築山風に小高くなったところに防空壕があります。そこには120cm四方くらいの鉄板が敷いてあり、その鉄板を引き上げると、防空壕の入口。この防空壕は、1943年（昭和18年）に作られました。当時としてはめずらしい鉄筋コンクリート製。そのため今日まで残っていたのでしょう。

57年前の第二次世界大戦終戦の時、1945年（昭和20年）8月15日まで使われていた鉄板は、もう既に酸化して穴があいており、その上にもう1枚鉄板が重ねてありました。当時はその入口にはしごを掛けて防空壕



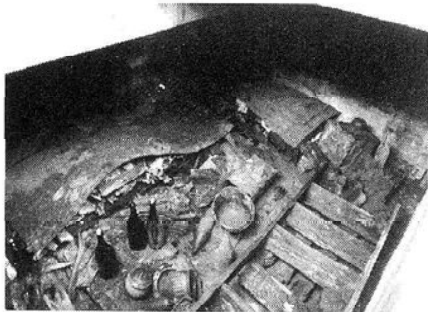
に入っていたそうです。残念ながら今はもうそのはしごは防空壕の中に落ちていて中に入ることは出来ませんが、中はたたみ約5畳分くらいのスペースです。空襲警報が鳴ると家族や、近所のお子さんも一緒に入ったそうです。中村さんのおつれあいさまはその近所のお子さんの1人です。

池袋の空襲の時には、その防空壕の中にタンスなどの家財道具を納め、鉄板の上から土を掛けて、板橋の方に逃げたそうですが、はしごがこげた程度で家財は難を逃れたそうです。

ポツンと「戦争はいやですね」と16歳の時に終戦を迎えた中村さん。1945年3月10日、東京大空襲のあと友人を探しに下町に行かれたときの記憶をたどり、男女の判別なく横たわる死体の臭いのつらさについて話してくださいました。

過去にこの防空壕を取り壊すことを考えられたそうですが、私たちの勝手な願いが許されるならば、「戦争はいやですね」の言葉を伝える「証言」の一つとして遺しておいて欲しいと思うところです。

（取材：市川、内藤、青山）



はっぱとどんぐりイベント



爽りの秋を迎えて、本町防災ひろばでは昨年集めた落ち葉から、いい腐葉土ができました。この腐葉土を地域の方や学校の田んぼにお分けしたいと思います。

そして今年もたくさんの落ち葉が舞っています。落ち葉のブルーやどんぐりの植付けなど、秋ならではの自然遊びもしながら、腐葉土づくりをしてみませんか。どなたでも参加できます。

なお、雨天でも集会所で落ち葉遊び等を企画しています。また、腐葉土をご希望の方はビニール袋をお持ちください。

主催：池袋本町防災まちづくりの会
本町防災ひろばの会

日時：12月15日（日）10時～14時

場所：本町防災ひろば（参加無料）

※簡単な昼食を一緒に作ります。材料費だけ負担ください。

池袋本町

防災まちづくり

Ikubakura, Bancyo
Bousai - Bousai / Bousai
News
no. 27

2002年12月4日発行

発行：池袋本町防災まちづくりの会
豊島区住環境整備課防災地区係
問い合わせ先：住環境整備課防災地区係
TEL 03-3981-0489
編集協力：（株）防災&都市づくり計画室

防災ひろばをめぐる動き

検討すすむプレーパーク

区では、本町防災ひろばにプレーパークを開設する計画を進めています。防災まちづくりの会と本町防災ひろばの会からも代表者が参加して、検討会が行われています。検討会はおとな会議と子ども会議に分かれて行われており、10月と11月には毎週水曜日と木曜日に、子ども会議の参加者がひろばで模擬活動をやりました。火を焚いているのを見かけた方も多くことでしょう。



ひろばの整備スケジュール

本町防災ひろばの整備については、今のところ次のような整備スケジュールが区から示されています。

4000㎡の公園用地は、当初の予定より少し遅れて、来年度以降設計に入りその後整備を行うため、予算要望を行っている段階です。一方2000㎡の防災センター建設は、予算化のめどが立っていない状況です。

今、防災まちづくりの会と本町防災ひろばの会では合同で、防災センターがどうあるべきかを検討しています。その結果を区に提言しながら防災センターの整備を待つことになります。

一方、ひろばに面して立地している旧リサイクルルームは、施設として利用することができるので、本格的な防災センターができるまでの間、暫定的な防災センターとして利用できるように会から要望しています。

2000㎡の敷地へのご意見をお寄せください

皆さんは、2000㎡の敷地と防災センターについて、どうしたらよいとお考えですか。防災まちづくりの会と本町防災ひろばの会では、検討を進めるにあたってご意見を伺いたいと思います。防災センターのあり方、整備するまでの暫定利用の方法など、2000㎡の敷地に対するご意見をお聞かせください。

●ご意見は：防災まちづくりの会事務局まで

〒170-8422 豊島区東池袋1-18-1 豊島区住環境整備課防災地区係内
ご意見はお手紙又はFAXでお願いします。FAX 5950-0803



本町防災ひろばの現況について

防災公園用地（通称：本町防災ひろば）は、「本町防災ひろばの会」の提言を踏まえ整備をする予定です。整備までの間、会と協働で用地を日中一般に開放しています。又、公共的団体による行事や活動については占用の使用も許可しています。今後とも防災まちづくりにご協力をお願いします。

豊島区都市整備部住環境整備課

つれづれに一言

池袋本町全域の住民が、地震等の大災害が来ても遠く他区の避難場所に逃げなくてもすむようにするため、池袋本町防災まちづくりの会が、豊島区の指導のもとに平成7年、地元住民（委員）43名で発足しました。会では防災活動や避難の障害になる電柱移設や貯水槽の設置、井戸広場等の検討を行い、3ヶ所の防災用井戸広場をはじめとして多くの成果を完成させました。またJR職員住宅跡地の利用について検討を重ねながら、同時にひろばの暫定利用を区にお願いし、整地の悪い所は石拾いなども行ってきたおかげで、誰でも利用できる防災ひろばが完成に近づきつつあります。災害時に地元住民が安心して避難できる防災ひろば、逃げないですむ防災まちづくりのもっとも大きな足跡となるものです。会員及び住民のみならず今後の一層のご協力をお願いするものであります。（池袋本町防災まちづくりの会・本町防災ひろばの会長 小島建之）